English Café Vol.3

Preface

お茶の数だけ異文化，外国語科の醍醐味？！　・・・1
他教科と関連した授業実践　・・・2
英語で広がる世界を子ども達に伝えたい！　・・・4
応援します！プレ若葉マーク先生奮闘記！　・・・6

お茶の数だけ異文化，外国語科の醍醐味？！

長年インドネシアのトアルコトラジャのコーヒーを愛飲しています。インドネシアのスラウエシ島で栽培されているこの銘柄は , 土壌条件や降雨量そして昼と夜の寒暖差などコーヒー栽培に欠かせない条件が整っているなかで生まれたそうです。アルファベットのＫの形をしているインドネシアのこの島をいつか訪れ，コーヒー農園を見学するのが小さな夢です。インドネシアは華僑が多く，ビジネスのためにオーストラリアなど近くの英語圏に子供を留学させたり，英語が話せるベビーシッターをお願いしたりする家庭も珍しくありません。どこの国も教育熱心な家庭は同じで，学校選びの段階から英語教育の充実した環境を選ぶ傾向にあります。

南アフリカ共和国のセダルバーグ山脈でしか育たないルイボスティは「不老長寿の飲み物」と言われています。カフェやレストラン , そしてどこの家庭にも常備されているそうです。南アフリカからの留学生のお土産がこのお茶でした。普段は優しくシャイな学生でしたが，差別的な発言には徹底的に主張する強さがありました。帰国後は北欧の大学院で学んでいます。英語ができるということは学ぶ国の選択肢が増えるということです。海外を視野に入れて大学進学や就職をするのであれば，ある一定水準の英語力は必須です。日本人が，外国語としての英語をマスターするには強い動機と根気が求められますが，必要になったとき上手に英語を学び続けられるよう，特に義務教育では英語嫌いを生まない授業が重要になってくるような気がします。

さて，何気なく味わっているお茶やコーヒーに癒されるのは , その飲み物をいただきながら思い出す人や国があり，異国情緒への郷愁です。フェアトレードのコーヒーや紅茶しか飲まなかったのは韓国のキムさん。あくまでも自分のこだわりであり，まわりに同じことは求めません。台湾出身の張さんからは，お茶を入れた後の葉がすごく大きくなる台湾茶をいただきました。何年もたってから台湾で高山茶を見つけ，“This is it!”という気分でした。そして，現地で飲むお茶は水の違いと旅の高揚感からか，とてもおいしく感じられるのです。

昔，教室で出されるスコーンや紅茶を目当てに，英語を習いに通ったものです。英語への憧れは流ちょうに話す素敵な先生の姿も魅力ですが，授業で触れた異文化や食文化なども大きく影響すると思います。小学校の学習も高学年になると教養として身に付けたい内容がたくさん出てきます。そのような中，外国語だけが中学年とあまり変わらない活動では児童の学ぶ意欲を持続させることはできません。他教科との関連や教科横断型の学習材を外国語の授業に落とし込む作業を丁寧に考えることで新たなアイディアが湧いてきます。お茶の数だけ異文化があるように指導者の数だけ楽しい発想があり，それらを味わえるのも外国語科の醍醐味です。

他教科と関連した授業実践

岩手県盛岡市立仙北小学校　指導教諭　福井千佳子

他教科で得た知識や体験を学習の中に位置づけて学習を展開すると，外国語への興味関心が高まり，学習が主体的になります。単元の中でいつ，どのように何を関連させるのか，ねらいを明確にして授業実践をしてみました。

1　単元について

①単元名

What would you like?
（Junior sunshine ！5　Lesson８）

②単元目標

大切な家族のためのランチメニューを作って発表し合うために，ランチメニューを注文したり注文を聞いて答えたりすることができる。

2　指導の流れ

好み，栄養バランス，値段など様々な観点から何度もメニューを考えて，注文するやり取りを毎時間行うことにしました。また，外国の食習慣を知ることで他国へ関心をもたせ，実際の場面で英語を使ってみたいと思うようにしたいと考えました。

①第１時

児童と共にどんなメニューにしたいか話し合いました。その人の好みに合ったもの・栄養バランスよく・いろどりよく・適当な値段・外国の料理を入れたいなど，児童の意見を取り入れた単元計画を立てました。

②第３時

第１時に児童から出された国を中心に10か国の料理（各数品）を用意しました。グループごとに地図をみたりこれまでの学習を思い出したりして，興味がある国を１つ選び，教師の店に買いに来るようにしました。その後児童は，それぞれのカードの料理の写真・背面の日本語の説明を見ながら，クラスの友達に勧めたい料理を決めました。最後に，グループごとに料理を紹介し，賛同を得た人数が多い料理を自分たちのメニューに入れました。

時間	ねらい	学習内容	教科の関連
1	いろいろな食べ物の表現を理解し，単元の指導計画を立てる。	・Let's watch and think ・Let's play 1 ・Let's listen 2	
2	外国のランチタイムの様子を知る。	・Let' s chant 1 ・Let' s play 2 ・Let' s listen 3	社会科
3	おすすめの国の料理を発表し合う。	・Let's chant 1 ・Let's play 3 おすすめの料理を紹介し合う。	社会科 家庭科
4	栄養バランスを意識してランチメニューを作ることができる。	・Let's chant 1 ・Let's play 4 欲しいものを注文しよう。 ・Let's listen 4	家庭科
5	値段をたずねたり答えたりして，やり取りをすることができる。	・Let's chant 1 ・Let's play 5 1000円以内で注文しよう。	算数科
6	どんなランチメニューにするか考える。	・Let's chant 2 ・ランチメニューを考えよう。	
7	家族のためのランチメニューを作ることができる。	・Let's chants 2 ・Let's play 6 買い物をしよう。	
8	誰のためにどんなランチメニューを作ったか発表し合う。	・Let's listen 5 ・Let's try ランチメニューを発表し合おう	

表１　単元の指導の流れ

図１外国料理カードの買い物

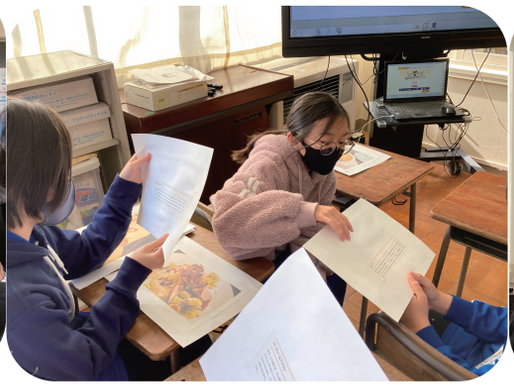


図２発表の準備

図３勧めたい料理紹介

③第５時

1000 円以内でランチメニューを考えて注文するようにしました。前時にメニューに入れた外国の料理の値段も考えたので , それらを友達に勧める児童もいました。単品の値段のやり取りのほかに合計を答える場面もあり , 児童は何度も数字表現を使うことになりました。

④第７時

前時に考えた料理を注文して , 家族のためのランチメニューを作りました。どのようなことに気を付けるかは , これまでの学習（栄養バランス・いろどり・値段等）を活かし , いくつ選んでもいいことにしました。一人一人がこだわりをもってメニューを作りました。

⑤第８時

グループごとに自分が作ったメニューについて理由を付けて発表し合いました。自分が使える英語を使って , なんとか反応したり質問したりもしました。

⑥児童の振り返り

（第３時）お店でのやり取りをして , しっかり韓国の料理を注文できました。いろいろな国の料理を見て , 日本で食べれない , 作れないようなものがいっぱいありました。味まで紹介してくれたので , 入れてみたいです。

（第４時）友達が買ってくれそうなものを（好きそうなもの）を考えてどんどん売り買いできました。私も , 栄養バランスを考えてたくさん買うことができました。

（第８時）今日は , 考えたメニューを発表し合いました。私は , お兄ちゃんのためのエネルギーランチを発表しました。お兄ちゃんを英語で言えるようになりました。いつか , 外国のレストランで注文してみたいです。

３　授業を終えて

外国の料理を紹介するために具材や味の言い方を使ったり , 栄養やいろどりについて考えて注文するために家庭科の学習が深まったりしました。何より , 飽きずに何度も表現や語を使う機会になり , 児童自身も「何度も注文したので , 料理名や表現を覚えることができた。」と振り返っていました。

英語で広がる世界を子ども達に伝えたい！

山形県鶴岡市立鶴岡第二中学校　教諭　加藤ひろ子

1　入門期における生徒の変化

小学校の英語教育がまだ全国的なものになっていなかった時「中学校で一番頑張りたいことは何ですか。」入学したばかりの生徒にそう問いかけると ,「英語の勉強と部活です！」とクラスのほぼ全員が答えていたのを思い出します。英語は楽しみな未知の科目。中学校最初の英語の授業で行う , 英語のあいさつや自己紹介の勉強を , 目をキラキラさせながら取り組む子ども達の姿が忘れられません。

教師：How are you? Repeat after me. How are you?
生徒：How are you?
教師：Fine, thank you. And you?
生徒：Fine, thank you. エンジュ？？？

一つひとつの表現を一生懸命に覚えようと何度も発音を繰り返し , ペア活動では , 日頃日本語で話す友人との英語練習に , 照れくさそうな様子。知っている英語でも , 舌や唇の使い方に一苦労。「ドッグ (dog)：ダァッグ」「アップル (apple)：ェア〜ップゥ」また , 英語の書き練習も一苦労。特に小文字は一文字一文字指書きからペンマンシップでの練習へ。「ｂとｄ,ｑとｐは気をつけてね。」「ｊやｙは下の線まで下ろす」などなど。

しかし , そんな入門期に変化が訪れました。小学校での英語教育が徐々に進められ , 週１回の外国語活動が , 更に年間３５時間の必修（５，６年生）となったあたりから , その変化は特に顕著でした。まず , 何より英語への抵抗が感じられなくなりました。例えば , 英語でのあいさつを , 何度も練習しながら１から覚えるのではなく ,「Hi, how are you?」と話しかければ「I’ m fine thank you. And you?」と自然に返ってくるのです。しかも ,「I’ m happy.」「I’ m good.」「I’ m sleepy.」など使えるバリエーションがとても豊か。ペアでの活動もスムーズで , 当たり前のように英語で楽しそうに活動し始めます。

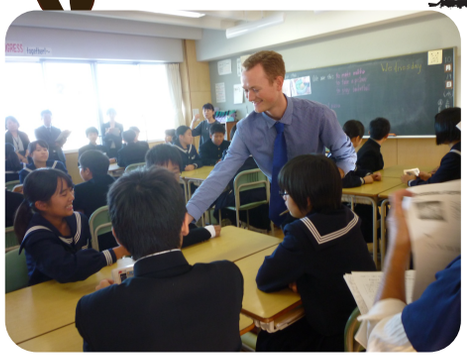
ALT と廊下で会えば Hello! と気軽に挨拶を交わします。

「ああ , 変わってきたなぁ。」と最も感じた瞬間があります。それは , 一般動詞の疑問文を学習していたときのことです。「Do you speak English?」という質問に「Yes, I do. I speak Japanese and English!」と返ってきたのです。「No, I don’ t.」を予想していた私は一瞬戸惑いました。が , その Yes には , 流ちょうに話すことはできなくても「英語を私は楽しく普段から使っているよ , 先生」という意味が込められていることに気づかされ , とても感動したのでした。

> 生徒１：Hi, how are you?
> 生徒２：I’ m good. How are you?
> 生徒１：I’ m hungry.
> 生徒２：Me too ！

2　小学校との連携

前述のような変化は , 何よりも小学校の先生方の指導がもたらしたものであり , その並々ならぬ努力や研究には本当に頭が下がります。2014 年から３年間 , 本校は文部科学省の地域拠点事業指定研究として「小中高大連携プログラム」に取り組みました。学区の３つの小学校との連携を図る中で小学校の先生方には様々なことを教えていただきました。



（1）ていねいな教材準備（スモールステップ）

視覚教材や体験教材が豊富で，子ども達の興味を引くアイディアがもりだくさん。それら教材が子ども達の理解を助けるものになっており，どの子どもも取りこぼさない工夫がなされていること。

（2）積極的な英語使用

授業で使える英語表現集をつくり，先生方で共有し，それを使ってどんどん生徒に英語を聞かせていました。授業はほぼオールイングリッシュ。とは言っても，決して難しい言葉は使わず，子どもの表情を見ながら授業が進められていること。

（3）英語環境づくり

小学校の学習環境づくりは１年生から６年生まで全ての子ども達が楽しめるように考えられています。学校の中には、所々に英語に触れるための工夫が。特別教室には日本語表記と英語表記，階段１段１段に貼られた one, two, three, four…の数字。廊下には異文化理解のためのコーナーが設けられ，英語の本もすぐ手が届くところに準備されていること。

子ども達が生き生きと英語授業に臨む姿を目の当たりにし，その意欲を中学校で削ぐようなことがあってはならないと強く思いました。小学校では，今年度から英語が教科として扱われるようになりましたが，小学校でどのような英語教育が実践され，何を学んで中学校へ来るのかを私たち中学の英語教師は正しく把握する必要があります。同様に小学校の先生方にも中学校に進んだ子ども達がどのように英語を学んでいるのか知っていただくことも必要です。授業を積極的に見合うなど，小中の連携や情報交換は今後ますます必要であり大切だと思います。

3　小学校外国語科に望むこと

十数年前，関東のある中学校に研修に行きました。「小学校の英語教育で大切なのは，まず，教室でしっかりと英語の学習ができること（ゲーム活動で終わるのではなく）。そして何より，中学校に入学し最初の英語の授業では，クラス全員の前で堂々と英語で自己紹介ができる子どもを育てることです。」これはその場で文部科学省の調査官の方から受けた助言です。

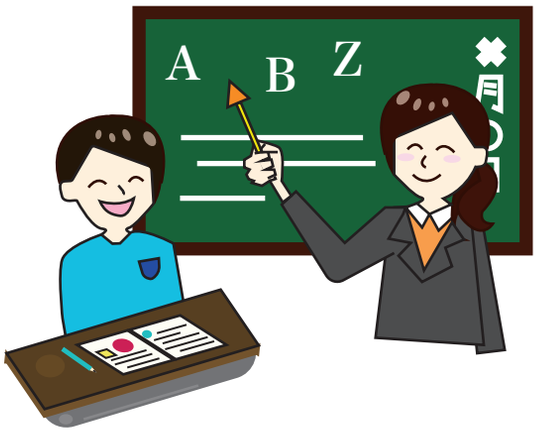
その後も小学校の英語教育はめざましく進んでいますが，子ども達につけたい英語力の基本は変わらないと思っています。自分達の思いや考えを伝え合うことで，お互いを思いやり理解し合うことが，言語を学ぶ意義ではないでしょうか。英語はそのためのひとつの道具です。英語を学ぶことで，子ども達は今ある日常を世界へとどんどん広げていけるはずです。

「小学校で○○をできるようにしてきてもらわないと困る」ということではなく，小学校で身につけたコミュニケーションの資質・能力を，更に中学校が引き継ぎ，表現力を伸ばしていくという意識を小中双方が高く持ち，責任をもって子ども達の指導に当たること，これに尽きると思います。

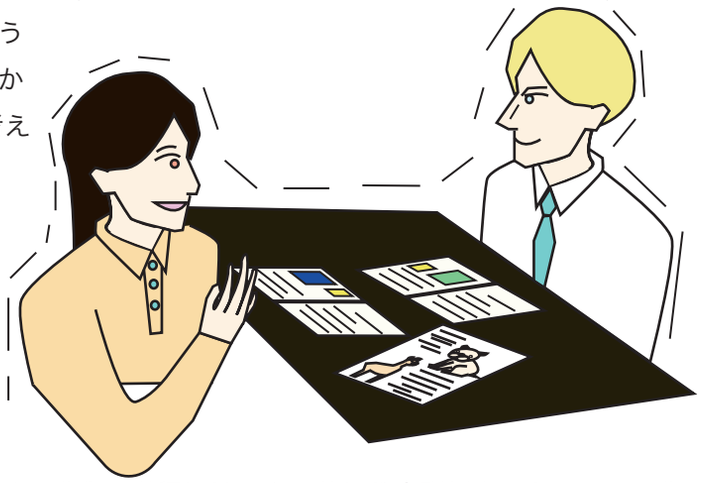
コロナ禍で感染予防をとりながらの毎日ですが，だからコミュニケーション活動ができないということはありません。自分と他をつなぐための言語を使うことで広がる世界の大きさや楽しさを子ども達に知ってもらいたい…そんな思いで今日も教室に向かいます。

応援します！プレ若葉マーク先生奮闘記！

　コロナ禍に翻弄され教育現場は英語教育改革どころではなかったはずなのに，先生方は何事もなかったように授業を再開し，新しい生活様式の中で教科としての外国語科をスタートさせています。どんな荒波が待ち受けていようと先生方の意識は高いのです。小学校にはベテランの先生方と同じぐらい英語を教えることにひたむきな，若い先生方もいます。先日，臨時的任用教諭として教えている若い先生の授業を見せていただく機会がありました。
何ができるのかという“Can you ～？”のレッスンでは「新しい ALT に，自分たちの学校の先生方を紹介する」ことをゴールに単元指導計画を立てていました。ALT の訪問日，５年生の児童は自分たちが，やはり英語でインタビューした職員室の先生方を，ALT に英語で紹介することに挑戦していました。あるグループの発表原稿を見てほほえましい気持ちになりました。原稿メモに思考ツールのフィッシュボーンが書かれてありました。道徳の授業で活用されていた思考ツールを見て，講師さんが外国語の授業に取り入れたそうです。



６年生では盛りだくさんの教科書に苦労しながらも，子供たちに自分の好きな動物を調べさせ，食物連鎖の学習とつなげようとしていました。ALT の先生にも意見を聞きながら動物絵本やタブレットを使っての調べ学習も取り入れ，授業の準備をします。いよいよ授業です。慣れ親しんだ表現とは言え，英語を書き写すだけでも大変なのですから，ワークシートを埋めるのに質問や珍答が続出です。はらはらしながら見ていましたが，子供たちは拙い英語表現でも，アルパカなど自分の好きな動物を選び出し，その特性についてどう表現したらいいか ALT と真剣に考えているのです。



扱う英語は平易でもオーセンティックな授業が展開されていました。小学校の段階から英語はツールであって発信する内容こそが大切であるということを，この若い講師の先生の授業は物語っていました。

　震災もコロナ禍も子供たちの学びは止められません。そして，小学校外国語も教科になり進化しているのです。その進化の過程には，今，共に教育現場を支えている，先生を目指すプレ若葉マークの先生の力も大きいのです。経験の長さではありません。子供たちが変化の激しいグローバル化社会の荒波を乗り越えられるよう，児童の夢の膨らませ方やもっと学びたくなる仕掛けを，可能性を秘めた若い先生の柔軟さから学ぶことができました。

開隆堂出版株式会社
本社　〒113-8608　東京都文京区向丘 1-13-1　☎03(5684)6111
東北支社　〒983-0852　仙台市宮城野区榴岡 4-3-10　仙台 TB ビル４階　☎022(742)1213

非売品　この資料は，一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則って作成，配布しております。